〝カキの森〟復活で地域を元気に

「森は海の恋人」の取り組みに世界が関心、支援行う

上流の森の清掃活動

森は海の恋人の一連の活動や、森が供給する鉄が海の豊かさを生むことを紹介した、畠山氏の最新刊

トップツアーが長期的に後押し

カキをはじめとする豊かな海の幸を育む森づくりや、森川海の連環を子ども達に伝える環境教育を行い、日本のみならず世界中から注目を浴びているNPO「森は海の恋人」。トップツアーでは被災地の現状や、周辺の森づくりなどについて知ってもらおうと9月25日、畠山重篤・森は海の恋人理事長を講師に招き、岩手・花巻温泉で開いたトップメモリアル研修会でカキの森づくりの意義や震災復興とのかかわりについての講演会を行った＝写真。

畠山氏、森川海の連環の重要訴え

畠山氏は宮城県立気仙沼水産高校を卒業後、宮城・気仙沼の舞根湾で家業であるカキ・ホタテの養殖業を継ぎ、営んでいる。一養殖家である同氏だが、約20年以上前から室根山を中心に取り組んでいる、森づくり、環境教育活動「森は海の恋人」運動によって、日本のみならず世界中からも注目を集めてきた。

3月11日の震災当日、畠山氏は地震の直後に、海から約25㍍ほどの高台にある自宅に避難し難を逃れたが、養殖棚やそこで育てていたカキはすべて流出。また長年かけて環境を整えてきた、気仙沼・舞根湾に注ぐ大川や周辺の森林も、津波を受けヘドロやゴミで汚染された。「ヘドロの黒い水で濁った舞根湾や、すべてが流された町を見て現実とは思えなかった」と畠山氏。また同氏の営む養殖場「水山養殖場」の従業員の全員が被災し、仮設住宅などに身を寄せることとなった。

しかしそのような状況の中でも同氏と従業員らは、1日も早い養殖場の復旧、復興と、周辺の自然環境の復元、再整備のための制度「復興オーナーズ&サポーターズ」を立ちあげたのだ。

同制度のうち復興オーナーズ制度は、同養殖場の復興後に取れたカキ・ホタテを前払いで購入してもらうことで、復旧、復興のために必要な資金を集めるもの。1口1万円で、カキ・ホタテ計20個を購入する。サポーターズ制度は舞根湾などの周辺海域と舞根湾に注ぐ舞根川の流域の再生活動を行い、養殖場の復興と養殖作業の体験、森川海の連環を子ども達に伝える環境教育のフィールドの再構築を目指すボランティアを募集するものだ。

宮城県産の種ガキは、古くはアメリカやフランスにも供給されており、「宮城は世界の養殖ガキの『ふるさと』」と畠山氏は語る。そのふるさとの危機に、フランスの料理界が慈善パーティーを催して地盤沈下して深くなった海に養殖棚を設けるための資金の提供を申し出たり、ルイ・ヴィトンが支援を申し出たりするなど、カキと畠山氏の活動が結ぶ縁が、気仙沼のカキ復活へ大きな力を生んでいる。

津波により大きな被害を受けつつも、森川海の連環の強さ、その恵を知る畠山氏は、震災を日本のグランドデザインを見直す契機と強く訴える。ナラやクヌギなどの広葉樹林で構成された日本古来の「里山」は、川を通して豊かな海に不可欠な「鉄」を海に供給し、日本周辺の海辺に豊かな海の幸をもたらしてきたと同氏。戦後植林されたスギ林にはつくれない、日本の従来の森川海の連携の形を取り戻すことで豊かな海も取り戻せると研修会の参加者に呼びかけた。

カキの森再生へ個人の力集める

震災以降、旅行会社としての得意分野を生かして復興支援に取り組んでいるトップツアーは、畠山氏の一連の取り組みに共鳴し、このほど新たに、気仙沼の豊かな「カキの森」と気仙沼の地域活性化の長期支援に取り組み始めた。

水山養殖場が実施している復興サポーターズ制度を利用し、9月16～18日の2泊3日の日程で「『森は海の恋人』復興ボランティアツアー～牡蠣・帆立養殖の復興と、環境再生へ」を企画、催行した。

同養殖場への移動手段や食事などを同社が用意し、サポーターズ制度をはじめボランティア活動に参加したくても自分で移動手段の手配が難しいという人なども参加しやすいようにした。気仙沼市内のホテルへの宿泊なども組み合わせ、シニア層などの体力面での不安がある人にも対応。「（市内中心部のホテルに宿泊することで）気仙沼市内の被害状況を知ってもらうと共に、ホテルに宿泊すること自体による被災地の経済的復興の後押しも図れる」とトップツアー事業開発部。第1弾には25人が参加し、舞根川上流の清掃のほか、震災後に石巻で採れた種カキを、養殖棚にたらすための綱へ挟む作業などを行った。

水山養殖場の畠山耕氏は「復興サポーターズに参加するにも、宿泊先や食事などを用意するのが大変だという人もいる。トップツアーを通して個人を中心に多くの人に参加してもらえるのではないか」と期待する。

トップツアーでは10月以降も月1、2回の頻度でボランティアツアーを企画し、同養殖場の復興と地域経済の復興を後押ししたい考え。カキ養殖という地元経済の要に直接かかわってもらうことで、地域経済の再生にもつながるとして、同社では今後数年単位で同養殖場の活動を応援していく考えだ。

トップツアー
石川邦大社長

私たちは、東日本大震災の復興に向けて、旅行会社として少しでも復興のお役に立てることは何かを社内で議論・検討を重ね、ボランティアツアーを企画・実施してきました。被災地では復旧・復興に向け、多くの人手を必要としている一方、現地でボランティア活動に参加したくても、具体的にどうしたらいいのかが分からないでいる人たちが多いという現状を知りました。その中で両方の要望を繋ぐことによりボランティアに参加するためのハードルが下がり、現地に行って活動していただくことで復興に向けたお手伝いができると考えました。結果、非常に多くの方々にご参加いただいています。こうした中、今回の水山養殖場の「海を豊かにするには、そこに流れ込む川、その水を育てる山、それらすべてが協調しなければならない」という考えに共鳴し、「牡蠣・帆立の養殖再生、自然環境の再生」に向けた取り組みに協力させていただくことにしました。この取り組みは継続的な活動が不可欠であり、私たちはこのボランティアツアーを通して、多くの方々にこの活動を知っていただけるよう、継続的に取り組んでまいります。

復興支援への参加意向生かし、自然環境再生を

トップツアーの熱気球事業で浄土庭園、空から望む

9月24、25の両日、岩手・平泉の世界文化遺産・毛越寺のそばに鮮やかなスカイブルーの気球が登場した。世界文化遺産登録と東北復興祈願を目的としたイベント「平泉福興祭」の一環で、トップツアーが企画、実施した体験搭乗のためのもの。100人を超える人が気球からの浄土・平泉の眺めを楽しんだ。

世界文化遺産に登録された平泉は、毛越寺庭園に代表される「浄土庭園」が特徴。普段上から見ることができない浄土庭園の世界を鳥の目線で眺めてもらい、その美しさや価値を再認識してもらおうと、平泉での運航を行った。

運航当日は風の影響などもあり、浄土庭園をすべて眺められる高さまで気球を上げることはできなかったが、地元の小学生約50人をはじめ親子連れなどが気球に搭乗。普段上空から眺めることのない、平泉の田園風景の美しい景観に触れ歓声を上げていた＝写真。

今年創立55周年、社名変更5周年を迎えた同社では自社の熱気球を使った記念プロジェクト「バーズアイ ビュー プロジェクト」を展開している。全国的に知られる「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」などの熱気球イベントをプロデュースしてきた町田耕造氏が会長を務めるNPO熱気球運営機構などの協力を受け、昨年3月以降、熱気球の搭乗体験イベントを開催。山梨・石和温泉や滋賀・草津、北海道・登別温泉などで実績を積んできた。熱気球の運航は比較的風のない時間が適していることから気流の変化が少ない早朝に行うため、宿泊客向けの体験型イベントとして期待されている。

トップツアーではトップメモリアル研修会の開催に合わせて、花巻温泉でも体験搭乗会を実施。気球のバーナーが上げる大きな音や安定感ある乗り心地に、搭乗した研修会参加者らも強い関心を示していた。

浄土の光で「復光」へ

大矢・盛岡大教授

平泉の価値と復興との関連説く

トップメモリアル研修会では、大矢邦宣・盛岡大学文学部教授、平泉文化遺産センター館長を招き「世界遺産・平泉～平泉の何が評価されたのか」をテーマとした講演も行った＝写真。大矢教授は震災復興にも通じる、「光」に守られた平泉の成り立ちについて説いた。

大矢教授は、世界遺産認定の要件について説明した上で、世界遺産リストに加える物件をユネスコなどに答申する国際記念物遺産会議（イコモス）が理解できていない平泉の価値として①現世浄土実現への運動②文化の力による平和実現運動③マルコポーロの「東方見聞録」とのかかわり④日本的美意識への評価⑤平泉地域全体の文化的景観の可能性――を指摘。

平泉文化を興した藤原清衡がなぜ金という光に守られた建造物を遺し、遺体を収めさせたのかなどを、平安時代の浄土思想の考え方や時代背景を織り交ぜながら説明。平和で豊かな理想郷「現世浄土」として、浄土思想と日本の自然信仰が融合した平泉の「浄土庭園」を作り上げたと紹介した。

また大矢教授は、「復興は『復光』」とも指摘。「この光は希望の光。希望なくして復興はない」と話し、光により土を清める浄土思想と三陸の復興のつながりにも触れた。

55th ANNIVERSARY おかげさまで55年

TOPTOUR

トップツアー株式会社
観光庁長官登録旅行業第38号　JATA正会員・ボンド保証会員
〒153-8550　東京都目黒区東山3丁目8番1号
http://www.toptour.co.jp